

Institute for Women's History & Culture Kyoto Tachibana University



「再会」 髙橋ほのか(本学現代ビジネス学部学生/写真部)

平安の昔から、

「昔の人」の懐かしい思い出を呼びおこすとされた橋の花の香り。その橋を最も好んだ「時の鳥(ホトトギス)」。「CHRONOS 時の鳥」は、ギリシア神話の「時の神」クロノスを頭上に戴き、「時」の大空をはばたく鳥をイメージしています。

### クロノス [時の鳥] vol.40 2018/10

- () 〈巻頭エッセイ〉
- 存在のあり方と意味 ─実態解明の難しさ─
- N 近代日本音楽史を彩る女性たち 1
- ⊤ イギリス女性生活誌 40
- | 考古遺物の中の女性 1
- ∖物語の女性 1
- Ⅰ 新刊紹介
- **S INFORMATION**

### 巻頭エッセイ

## 第13プロジェクト 「社会における女性の活動 -その意味と役割」

## 存 在 のあり方と意味 実態解明の難しさ

# **增渕)徹** 本学文学部歴史学科教授

あって、 もって直ちに実態を検討することはできない 反映したものではなく、 家建設の途上において受容した中国思想に基づく表現で の思想が表現されている。もちろんそれは日本が古代国 織物生産に関わる労働は女という、性別に対応した分業 銅六年(七一三)の詔の一節である。ここには「耕耘」 織を修む」。これは『類聚三代格』(農桑事)に載せる和 すなわち農業生産に関わる労働は男、「絍織」すなわち 本は、務めて貨食に従る。故に男は耕耘を勧め、 「国家の隆泰、 従来から言われているように日本社会の現実を 要は民を富ますに在り。民を富ます したがってこうした修辞表現を 女は絍

る史料とされる。当該木簡は九世紀中ごろの、長さ六○簡は、古代の村落指導層に属する女性の性格や実態に迫 あったかとあらためて問うと、その実態はわからないこ 福島県いわき市の荒田目条里遺跡から出土した二号木れでも、時として興味ある材料が提供されるときがある。 て考察することには困難が伴うのが常である。 ることはほとんど期待できず、 とが多い。しかも古代史となると新たな史料が報告され だが、 幅四・五センチの大型木簡で、 過去の社会において女性がどのような存在で 畢竟新たな視点を設定し 五月一日に郡大 しかしそ

> 出欠確認にも用いられ、その後に廃棄されたものらしい この木簡は指示にしたがって五月三日に集合した各人の 最後の人名の後には別筆で「合卅四人」と書かれるので、 前の肩の部分には合点とみられる「、」や「不」が記され、 田植えをするよう指示する内容となっている。 刀自、手古丸、黒成」以下三六人の名を記し、彼らに対』とを表す「郡符す」の文言で始まり、それに続けて「里 し五月三日に郡司職田(郡司に支給された田地)に赴き (郡の長官)名で発給され、郡からの下達文書である 各人の名

られるだろう。 地位呼称で記されているのも、それを証していると考えで記されているのに対し、彼女だけが「里刀自」という 宛所は「里刀自」と解される。他の三五人がいずれも本名 こうした一般的な原則にしたがえば二号木簡の事実上の 所の多くは「○○里長」「○○郷長里正等」などであり、 いる。 (第一号木簡) には「郡符す、立屋津長伴マ福麿」とあえば荒田目条里遺跡から出土したもう一点の郡符木簡 立屋津長に宛てた指示文書であることが明示されて 全国の遺跡から出土している他の郡符木簡でも宛 「符」文言の次には文書の宛所が記される。

「刀自」は本来は女性の尊称であり、 義江明子氏らに

営における有力層の女性の役割の一端を示す史料である ると理解されている。 農業経営に大きな影響力を有する存在であった実態があ 家を支配する主婦のことを指すと考えられてきた。 に対していく必要性を提示しているとも言える。 とともに、女性の存在を念頭に置いて農業関係の史資料 て機能した背景には、「里刀自」が里の実情を常に把握し、 は里長の妻を指すとみられる。 よって、「家刀自」という語の存在などを手掛かりに、 「里刀自」は里を束ねる女性の尊称であり、 つまり二号木簡は、 それが公文書の宛所とし 古代の農業経 具体に

ある。動員人数の内訳もわかり、二月はおそらく「太」月二一日に一三人、六月四日に二六人を動員した記録が簡群の中には、農作業のために二月一七日に一二人、四 働力の逓減に対応して成人労働力(「太」「殿子」)と若 子である。 もう一点出土しているが、そこに記された名はすべて男る。そして、六月四日付で一三人の名を記載する木簡が 年労働力(「少」「少子」)の構成比が変化すると解され 一九人:「殿子」七人である。それぞれの作業は荒起し(二のみ、四月は「少子」三人・「太」一〇人、六月は「少」 ころの寺院領荘園の経営拠点と解されるが、出土した木 土した木簡も興味深い内容をもつ。同遺跡は九世紀前期 農業経営の面からは、大分県国東市の飯塚遺跡から出 荒起し→田植え→草とりというような必要とする労 田植え(四月)、草とり(六月)に対応すると解さ

五束)」という記述を列挙した、おそらく出挙関係の木は男子ばかりである。他方、「○○女 十束(あるいははずだが、飯塚遺跡では労働力として動員されているの六月の作業には女性労働力が含まれても不思議ではない 農作業が男女の共同労働であったろうと推測すると、

> 飯塚遺跡出土木簡とあわせて考えると、的な負担対象には位置づけられていた。 簡も出土しており、少なくとも女性は出挙稲による間接

れ跡の 性はその補助にとどまると考えるのは一見わかりやすい田植えという労働集約型の作業には男性が動員され、女 であることはわかるが、女性が極端に少ないのはやはり 力と決めてかかるのも危険であろう。 はないか。もちろん、動員された男子がすべて成人労働体像の説明と言うにはほど遠いと言わざるを得ないので れても仕方ないであろうし、少なくとも当該農作業の全 的な性別分業を追認し、それに寄りかかった理解と言わ 理解ではあるが、それでは「耕耘」と「絍織」との概念 何らかの実態を反映していると考えたくなる。もちろん されているところから共同作業としての性格をもつ労働 人しか動員されていないのはなぜだろうか。男女が動員 二号木簡の理解が難しいことにあらためて気づ 例えば統率者である「里刀自」を除き、 女性が二 かさ

うか。異なるとすれば、それは郡司職田と荘園という田もつようにも受け止められるが、それも果して妥当だろながら、荒田目条里遺跡と飯塚遺跡とでは異なる内容を 労働力動員がその労働負担の軽重にどのように対応して な相違はなく、 働力が極めて少人数である点からみれば両者には本質的 相違からくる記述内容の限定(史料的制約)から異なる それとも一方は三六人、他方は一三人という動員規模の 地の性格に由来する経営方式の相違と考えてよいのか、 ように見えるにすぎないのか。荒田目条里遺跡の女性労 るかという点については、 ほぼ同じ時期の農作業に関わる記述をもつ木簡であり れにしても俄かには判断しにくい。 基本的には同様の労働方式とみてよいの 男女差を前提に考えるのを 少なくとも

先ず保留し、 慎重に判断することが必要とされるだろ

やはり一 は、それぞれの時代や社会において必要とされる何らか ある局面に男性が、 を感じるものである。その難しさを乗り越えるためには、 に解明するにはどうしたらいいか、 に刷り込まれた現代的な観念(思い込み)を前提とせず の意味があるはずで、それを知らず知らずのうちに自分 してそれは歴史学として好ましい状況ではない。 な内容につ での性や年 共同作業であったろうとは思う。 るとは到底思えず、 つ一つの事例を掘り下げ、 のであろう。 いては依然としてわからない場合が多い 齢による比重の置き方や、 いて、 あるいは女性が存在すること自体に 産業の各局面で性的分業が貫か 多くは両性の、 しかしそれぞれ 事実を積み上げて 反省とともに難しさ その労働の具体的 また老若男女の、 生活の の局面 。そ

体を見据えようとした場合、 身が記録した史料が希少だということになると、 さを増してくる。 が少なくなり、 纏う問題であって、 しかし、 上のことは過去を振り返ろうとするときに常に付き 前述したように時代を遡ればそれだけ史料 しかも女性の事柄に言及したり、 必ずしも女性史に特有のものではな この問題は否応なしに深刻 社会全 女性自

主の立場や行動原理が当時の官制や政務・儀式執行のあ ともそれぞれの記述の背後に記主の主体性が存在してい ることを前提に理解することが当然視される。 私は史料として平安時代の古記録を扱うことが多い それらは基本的に男性貴族が記したもので、 あるいは他貴族の記録との比較から、 理解に至り しかも記 少なく

> ならない。 ではない。 あって、 う点は、古い時代の研究に大きな制約を課している。 かの女性を除いて自身の手になる記録が残されてお したがって古記録中に見える女性関係の記事につ い。つまりは男性が記录・こうに、常に記主の主体性を前提として間接的に考えねば常に記主の主体性を前提として間接的に考えねば 状況がある。 女性が記す必要性を見出した結果としての記事 ほとんどの史料がこの視線上に位置するとい しかし同時代の女性の 場合には、

線と、 としての在り方を問う材料には容易にはなるまい。 視点を提供してくれてはいるが、当の「里刀自」の主体 しているかを示し、古代の村落支配における支配側の視 とされる女性に対して他者(とくに郡司側)がどう評価 るものではない。荒田目条理遺跡の二号木簡は、「里刀自」 新しい史料であっても、この制約から容易に逃れられ その対象となる女性の存在意味を観察する重要な

逃せない。記録したということは、そこに女性がいるこも、そこに女性の存在や言動が記録されていることは見 手掛かりが得られるかもしれない。 ることを通して、間接的ながらも、 とを示すものでもある。そうした視線を意欲的に設定す ことであり、 とに何らかの記録すべき必要性を見出していると言いう だが、 たとえ男性側からの記録が主体であるとはして つまりは女性の存在自体に意味があったこ 女性の主体性に迫る

小さなつぶやきが大きな影響を生み出すこともあるよう するなど社会における組織形態も多様化し、 げてきたことは事実である。 ためて社会の多様性に気付かせ、 様々な困難に直面しつつも活動する女性の存在が、 女性が社会で活動領域を広げるようになって久しい。 「活動」の意味する内容も一筋縄ではとらえきれな NPO的組織が広汎に成立 私たちの認識の幅を広 SNSでの あら

の事実を丹念に掘り起こし積み上げていくなってきた。こうした時代においては、 く研究が必要で やはり多様性

権との関わりで重要であ 感を示した斎王も存在した。 意思は本来関係しない。 治的事件をひき起こしたり、 にある。 れた内親王・女王で、 今年度のシ 斎王 女王で、その選定や赴任・帰任には本人のは皇室の祖先神を祀るために伊勢に派遣さ ンポジウムで斎王を取り しかしそれでも、 最近は、その存在自体が王 あるいは文学の世界で存在 上げる理由 異性問題や政 はそこ

たことは、 たこと、 てきている。何かを考えとの注目すべき指摘も出 のはずである。 身にとっての大きな歩み の視線の発見であり、 わりの世界に対する自己 とであろうとも、 他者からみれば些細なこ 斎王がいるのではない それを自覚してい 発信しようとし たとえそれが 身のま かた

にある。 体的な視線の発見を うした問題関心の延長上 第13プロジェクトはこ きたいと考えている その事例を集積し スすることに取り 自己と世界への主 あらためて、 女

> その際、 定の目配りができればとも思う。 本学の立地する京都およびその周辺の女性に

- 参考1 像 | 里刀自| 二〇一四年) 『律令国郡里制の実
- 参考 2 榎村寛之『斎宮―伊勢斎王たちの生きた古代中塚遺跡』(二〇〇二年) 国東町教育委員会『国東町文化財報告書二六 飯
- 参考3 (中公新書 -伊勢斎王たちの生きた古代史-

飯塚遺跡出土木簡(参考2から)





「合廿六人 以六月四日作人廿十六人 [少ヵ] 殿子七人 勘申永岑」 九人



[以ヵ] □六月四日作十三人 豊甘 乙万呂 郷万呂 今 吉 高 豊 万 万 太 田 呂 呂 田 次作 成 細万呂 嶋次 妖人

### 性たた 音楽史

# 史

前

児童教育学科准教授

本では、 事ではないとされ、 必要な鼓笛隊の調練も始まってい たる。 を眺めてみたい。 かった。本連載では、女性音楽家が果 ていく。軍楽は別として、 人々は耳慣れない楽器の響きに驚い で娯楽音楽が演奏され、軍隊の訓練に した役割を考えつつ、 そこに文明開化の匂いを嗅ぎ取っ は明治維新から 歌舞音曲の類は男子一生の仕軍楽は別として、もともと日 5 年前の日本では、 女性の音楽家が多 日本近代音楽史 5 年に 居留 地

掛(後の東京音楽学校、現在の東京藝術 、一八七九(明治一二)年に音楽取調日本における初の音楽教育機関とし

> 書」で、 定められたものの、 スル事」の三つの目的を掲げている。 ヲ養成スル事」「諸學校ニ音樂ヲ實施 曲ヲ作ル事」「將來國樂ヲ興スベキ人物 師範学校で学ぶかたわら、 育研究視察の為、 澤修二 (一八五一— 大学)が設置された。その中心人物は らなかった時代に、扱うべき音楽を取 一八七二(明治五)年の学制に「唱歌」が 一二)年に提出した「音樂取調ニ付見込 「東西二洋ノ音樂ヲ折衷シテ新 一八八五(明治八)年に師範教 帰国後の一八七九(明治 ブリッヂウ 何を教えるのか分 一九一七)である。 音楽を研究

まった。現在の日本においても使われ(オルガン)と箏および胡弓の伝習が始 を実施するのに必要な楽器として風琴 楽器として洋琴(ピアノ)、 謝礼は不要、 された。日本音楽に習熟している者で 九六)が2年契約で雇い入れられ、ピア ホワイティング・メーソン(一八一 がボストンで習った音楽教育家、ルー 調べ、教員を養成しようとしたのである。 るバイエルはここに由来する。 するという条件で伝習人が募集され、 ノやバイエルなど、楽器や図書が購入 ○月より唱歌の他、音楽の基礎的な 一八八〇(明治一三)年三月に、 楽器や楽譜は備品を使用 学校で唱歌

> である。 アノの12音と箏の調子や雅楽の十二律を取調掛に招き、箏曲家や雅楽家にピ大家、山勢松韻(一八四五―一九〇八) 教を務めている。伊澤は山田流筝曲の 名は一八八一(明治一四)年二月から助 ち 7 名が雅楽の伶人 (楽人) であった を持つ西洋音楽が受け容れられるかど がほとんど同じであることを確かめて でに洋楽を研究していた人もおり、 が、宮廷の儀式で演奏する必要からす 広い年齢の22名だったが、 活)。第一回伝習生は女性13名を含む幅 入学を禁じるが、一八一八八三(明治一六) うかを確認するところから始まったの いる。日本音楽とは異なる楽器や、響き 来国家のために役立つとい したのは少数であった。伝習生のう 教育機関であっ 音楽取調掛は官立唯 一八八七年三月に復 た 年一月に女子 最後まで全 う 0 の共学  $\mathcal{O}$

通訳官に岡倉天心がいたが、 支配人を務めた父を持ち、 なった士族出身の中村專(一八六四 でた彼女は通訳を務めてメー 助教となって箏と胡弓を教えている。 であった專は、伝習のかたわら、半年で 一九一○)を例に挙げよう。第十五銀行 ここでは、 17歳で最初の伝習生と 英語が堪能 音楽に秀

性で髪を銀杏返しに結い、時に合奏をしたこと、專は当時の新 徒の条件が書かれていた。英語を理解 きを受けたのは專からであり、 に住んでいた音楽家、幸田延(一八七〇 が専だったといえよう。偶然にも隣家 する為に邦楽の調査や指導もするとい ヲ解スル者 は、「普通ノ して洋楽を取り入れ、他方、唱歌を実施 しく付き合い、メー -一九四六)は、ヴァイオリンの手ほど 初期の取調掛の活動に適任の人物 していたピアノを彼女に贈っ 伊澤の「音樂取調ニ付見込書」に 讀書ニ差支ナキ者 ハ最モ善シトス」という ソンは帰国 時には洋 の際に、 但英文 一緒に

音楽史考』 有朋堂、1948年

メーソンと助教たち (前列右から2人目 が中村事)

出典:遠藤宏『明治

調した山勢の箏と專のヴァイを驚かせたのは、西洋音楽の 於る完全な調和音である。彼女はたっ を出すことが出来るとは信じられぬリン)のような違った楽器で、本当の音あったが、「高嶺夫人が提琴(ヴァイオ あったが、「高嶺夫人が提琴(ヴァイ 奏だった。《埴生の宿》等の簡単な曲で と書いている。さらに、この日のモー 韻と筝を演奏した專を「巧妙な演奏者」 雑なもの」であった。モースは、 が、当初彼にとって、日本音楽は「最も粗 で多くの音楽を熱心に聴き回っていた は、民謡から三味線、琵琶や箏、 て助手を務めた高嶺の家に招かれた。 大森貝塚を発見したモース(一八三八 と結婚する。東京大学理学部に勤務し、 なった高嶺秀夫(一八五三-乗馬姿も見かけたことを話している。 [中略]いよいよ始ると、私は吃驚した。 「音楽はかなり判る方」というモース か。一八八二(明治一五)年に專は、伊澤 [中略]私を驚かせたのは、その演奏に 一九二五)は、同年再来日して、 では、中村專の演奏はどうであった と証言している。專が箏とともに 七日間しか提琴を習ってい いたことがうかがえよう。リンにおいても高度な音楽性 して東京師範学校長と 西洋音楽の音階に 土九 - オリン合 山勢松 雅楽ま  $\bigcirc$ かつ 整 ス

> 究し、新曲を作る-音楽家の人気投票では、 を挙げていたことに、驚きを禁じ得な と西洋音楽の音律や記譜法の異同を研 は、わずかな年月で難題 その後の東京音楽学校の演奏会に出演 した女性が貢献していたのである。そ い。そこには、邦楽とともに洋楽も演奏 も、著名な人物であったことがわかる。 して第二位を獲得していることから (明治二五)年の読売新聞社による婦人 ありながら幸福な家庭生活を送った。 の間に子どもたちにも恵まれ、 した記録は見当たらない 以上のように、初期の音楽取調掛で 專は美術や音楽への造詣が深い夫と に向き合い、成果 が、 日本音楽家と 一八九二 日本音楽 病弱で

た。 れは唱歌教育を推し進めるためであ

気投票」(『音楽雑誌』第19号、 本その日その日』第1~3巻(石川楽史研究』第18号、二〇〇一年)、モ 〜3巻(石川欣一訳、○一年)、モース『日 「婦人音楽家の 一八九二年 . <del>'</del>

### 連載● ギリス女性生活誌

### レジェンド マンたち

近代看護確立の貢献者たち

松浦 京子

えば、 ヴィ フロー 歴史のなかに名を残す女性たちに目を 一九世紀女性の代表的レジェンドと言て語るつもりである。そこで、まずは、 心惹かれた「レジェンド」たちについなく、女性史研究を続けてきたなかで に移ろうと思う。 ジェンド・ウーマンたちのあれこれ」 女性と教育」から、 紙面が小さくなった。それに合わせ一号より、年二回発行となり一回の ろうということで、一九世紀の看護の けてみたい。 ク しばらく続けてきた「一九世紀の イギリス近代看護の生みの親、 レンス・ナイティンゲー リアのような圧倒的存在では とはいっても、 新しいテー ルであ マ「レ 女王

あるナー 役のメ や傷病者の世話をする(見守る)つまりは、一人では生活できない 英語で看護師を表す スnurseは、 、一人では生活できない幼子ドを意味することもあった。 時に乳母や子守 一般的な言葉で

る看護、 のとして、 ピタリ 身寄りの女性 れゆえ、 存在 して、 は、 が成立してくると、 世話をする者が雇われるよう た治療のために傷病者を収容する施設 う意味あ 寄りのない者にも、キリスト教ホス女性がその役割を担ってきた。また、 その発露たる「施し」の際たるも してお 近世以降、 ŕ 介護活動が行われてきた。 イの教えと伝統を持つ国々で 人の歴史と共に看護する者は 修道女や信徒団の女性によ ŋ の言葉であったのだ。 家族や知 病院や施療院といっ 施設内で傷病者の 時に召使 んになっ



1877年のキングズ・カレッジ病院の富裕者向け病棟のレディ・ナース見習い (出典: Carol Helmstadler and Judith Godden, Nursing before Nightingale, 1815-1899, Farnham.2011)

ンとかプライベーともあった。いわれ 話を専門とするサーた。また、裕福な宮 ンプのような身持ちの悪い底辺の女性 格も必要とされなかったので、 というのが一つの典型でもあった。 ズルウィット』に登場するサラ・ ディケンズの小説『マーティン・ こうした職に就くのに専門的訓練も資 た職業的看護者の登場である。しか に就く者の大半は一八四四年刊行の 裕福な家庭では傷病者の世 わゆるハンディ ヴァントを雇うこ ナ スと呼ば

その職

地の野戦病院の悲惨さを告発する報道一八五三年勃発のクリミア戦争時に現 仕えよ」との神からの「召命」体験をがナイティンゲールであった。「我に 看護を志し、 持ったとされる彼女は、 トルマン層の家に生まれながら貧民 こうした状況に変革をもたらしたの イツで密に訓練を受け、 親の反対にあいながら 富裕なジェン そして、

まり、 近代化」の歴史がはじまることとなっ 養ある中流階級女性を軸とする的確な 集められた基金をもとに、 たのである。 病院訓練を経た看護専門職者(ト 院付属看護師養成所)が開設され、 結果、彼女の活躍を顕彰 護専門職者」の有用性をイギリス社会 物資調達の改善に発揮されたの を一気に引き下げたという 団長として現地に赴き、 イティンゲール看護学校(聖ト に印象付けるという成果を得た。 て傷病者を看て回る白衣の天使= 決定されたとき、 をきっかけに看護団を派遣することが 方で この時、 ・ナー ここに近代看護改革、 報道を通じて、 ス 彼女の手腕は衛生管理や の養成が本格的にはじ 選抜された看護者の ランプをもっ 現地の死亡率 しようとして 伝説を創っ いわゆるナ 「看護 ・マス病 その レイ 看 教 0

動、宗教的救済目的から離れた世俗性 上の教養ある女性に相応しい職である 史はナイティンゲー はあった。 重視して看護者の養成を行ったところ けるべきだろう。 に修道会的特質を持ちつつ病院訓練を ナイティンゲ たとえば聖ヨハネ・ハウスのよう しかし、 看護職こそ、 なぜなら、 やはり、 ル看護学校以前に ・ル以前、 規律ある ナイティ 看護の歴

> である わち「看護の専門職化」を望んだから倫理性を持つ専門職であること、すな

ゥ

7

ギリスにも及んできてお た科学 時、一九世紀初頭にフランスで始まっ病院改革の流れにも呼応していた。当 声が上がってきて るようになっていたのである。 識と経験をもった看護者が必要とされ 医師に報告することのできるための知 容態の変化を見て取りタイミングよく 化のための患者の経過観察の重要性、 症例研究の場となり、 の病院改革も進みつつあった。 スタッフへ教育、 また、 医師たちの間からも看護に当たる 的研究に基づく医学の進展がイ このヴィジョンは、 待遇の改善を求める いたのである。 疾病分類の明確 そのため 折からの 病院は つま

ギヤ チャ

れる看護学校に耳目も志願者も集め、華々しい名声が、その名を冠して呼ば立うしたなか、ナイティンゲールの

そして、 ていくこととなるのである。 をふるい、看護職の専門職化に貢献 彼女たちは様々な局面で活躍し影響力 ンド・ナ るような高い出自を持つ女性のト てであろう、 のである。 ナイティンゲール路線を広めてい て専門訓練を受けた看護師 各地の病院に赴きヘッド ースが誕生したことも事実で、 また、 の育成に尽力することで、 レディ・ナ 学校の修了生たちは、 彼女の名声に惹かれ ースと呼ばれ ナ (トレイン スと 0 V

したフロ の初期の修了生のなかから、二人の女次回では、ナイティンゲール看護学校 ので 訪問看護制度の定着に大きな足跡を残 発展するが、 民に対する訪問看護の三方向をもって の収容機関である救貧院(ワ 民対象の慈善病院)看護と、 性の活躍を紹介したいと考えている。 の法的社会的地位の向上と社会進出と この動きはいうまでもなく一九世紀 フェミニズム、 一九世紀イギリスの看護は、 そして、 てあった。これらの点を踏まえて、その要求要因においてつながるも 付属施療院の看護、そして在宅貧 グネス・E・ 女性史的視点から見ると、 レンス の二人についてである。 施療院看護の分野で名を すなわち中流階級女性 S ジョ 困窮貧民 病院(貧 クハウ

### 考古遺物 中

性別分業をめぐる考古学の議論と 日本古代の土器

中久保 辰夫

本学文学部歴史遺産学科准教授 史学や民族学、 古資料を駆使 ついて幅広く発言するためには、 して、 過去の 別分業に

「人類社会が、

過去、

どのよう

では なることが明らかになった。 労働の種別によって男女の従事率が異 傾向を調べあげた。この研究によって、 が主体的に携わっているのかといった をもとに、 業に関する研究が進んだ。 クによる古典的な業績が、 場から性別分業を論じたG 較的豊富にある。 ん労働に 世界各地の二二四の種族の民族誌 ド 一九八〇年代に紹介され、 ックの性別分業論 四六種の労働を男女どちら 男性のみが携わる場 マ 本考古学 マ 性別分 F. ッ ツ

されて 象とする考古学の研究が有効となる。 期的な視座をもって性別分業の歴史的化的につくられる性差も含めて、より長 短いことによる。それゆえに社会的、文先史時代の時間幅に比べると相対的に まな器物を男女どちらが製作 の出現から現代までの人工物を研究対 展開を考えようとする場合には、 代が、世界各地で一様ではないもの 使用と普及の認められるようになる時 文字で記された資料のみで考究して きたのか」といった問いを立てる時 物学的な性差による労働の分担をし くことには限界がある。それは文字の しかし、 資料の解釈には困難が伴う。 いるものはごくわず の中で製作者の名前や性別が記 資料が豊富な考古学であっ ってよい それゆえに考 資料はほ したのか さまざ 人類 考

> は飛鳥 野との協業が必要不可欠となる。 さい 性別分業を論じたG・マードッ富にある。さらに、民族学の立宗・奈良時代以降の文献記録が比 わいにして、 人類学といった隣接分 日本列島中央部で 文献

る労働、 器や専業者が生産する場合は、 位労働と考えられている。 割を占める。 を基軸と、 力仕事で、 そ 居住地の近隣で 女性によって担 して筋肉労働の要求度が 方、 か ただし、 土器生産は自家消費的 つ遠隔地に赴く必要の 女性優位労働は衣 営みうる労働が 商品化された われ た事例 男性優 が8 少 な 多 な

学が説く世界的な傾向に過ぎないこと 問題を考えてみ 筆者が専門とする土器資料を例にこ 日本古代における性別分業はどうか。 には、注意する必要がある。それでは、 ただし、 この議論は、あくまで人類 たい

土師器という土器の独自性 弥生土器の系譜をひき、 古墳時 土 一師器

焼成温度

の事例より、自家消費の範疇をこえるは、戦後の一時期まで土師器皿を製作は、戦後の一時期まで土師器皿を製作れているほか、京都岩倉木野・幡枝にづくりの美しい娘がいたことがうたわ た る。 は、 朋子の指摘が興味深い。 確となっている。 に中世の『梁塵秘抄』に製作集団の存在が浮かび 記載より、 (八〇四) 搬までの作業を助けている。 がみえて、 馬秋庭女という女性の土器づくりの名 二(七五〇) 査をふまえて、 土器生産を女性が担って この土師器の製作者は、 この起源をめぐっては、 たとえば、 平城京木簡では「土師女六人」の土師器しか用いないことが記され神饌を盛る器として「童女の焼い 女性であることが確実である。 た素焼きの土器である。 年の『皇太神宮儀式帳』 アジア各地に 京内に女性からなる土師器 男性が粘土採掘から製品運 年「浄清所 「正倉院文書 長友は、 いることが明 も楠葉に土器 上がる。さら には、 天平勝宝 一的な史料 延暦二三 **図** 13

に集落間分業と専業的な土器生産が 土器生産を論じた長友 生産の専業化が進み から古墳時 おける民族調 考古学的観 弥生 は

> 性へ、研究を進展させる。 割を演ずる場合、 おいて性別分業と婚姻居住制との関係 を果たす場合、 わる場合に区分 ックは一九四九年の 々に携わるか、 しか従事しないか、 あるいは補助的な役割 3 5 女性優位 男女が共同 男女ともそれぞ その後、 『社会構造』に 女性 のみが携 で、 マ な役

超す労働は、 物製粉、 た。 と 性優位の比率が7割を超す労働は、穀いったものであることが判明した。女 性優位労働、(3)を中間形態、 学に紹介した都出比呂志は、 や装身具の製作、 の保存管理、 種子の採集、 材木切り出 クの区分のうち、(1)と(2) 小動物の飼育、 このマードックの業績を、 これをまとめると、 (5)を女性優位労働とまとめ直し 示切り出し、家屋建設、耕地開墾と木材・樹皮や石・骨・角・貝の加工、 すると、 縄の製作である。 楽器やボー 水の運搬、 男性優位の比率が7割を 衣類の製作と修繕、 土器・織物・敷物・籠 金属工芸や武器の製作、 火おこしといった労働 して関わるも - トの製作、 耕作と植付、 調理、 さらに、 男性優位労働は 野草·根菜· 日本考古 採鉱・採 マー 家禽や 酒造り を男 4

められると説い も女性が土器生産を担 た。 そ して、 つたと推定す

から近世

近代にいたるまで生産され

男性が優位で女性は稀に

師器が、 れている。本稿では、この契機が古墳景について未解明の部分が多くのこさ 労働と理解されることが多い。 物が主流となり、 界各地では、 恵器生産が始まった以後も時代をこえ てて、この実証を他日に期した るのではない 時代における土器生産の性別分業にあ て女性が生産し続けた。この文化的背 されると食器類は窯で焼成された焼き て継続した可能性が高 こう 日本列島中央部では、 清浄な器として、 島から窯業技術が渡来 かとい 専業的な土器生産が開始 その労働は男性優位 った予測までをた 13  $\widehat{\mathbb{Z}}_{\stackrel{\circ}{\underset{\circ}{1}}}$ 都の器とし 素焼きの土 0 専業生産 しか 世

### 参考資料

Murdock, G. P., \*Comparative data on the 都出比呂志『日本農耕社会の成立過程』(岩

Vol.15, No.4, 1937 of labor bу Social

Murdock, G. P., Social structure, New 岡田精司「宮廷巫女の実態」『日\*

書房二○一三) 長友朋子『弥生 『弥生時代土器生産の展開』(六

(女性史総合研究会編

東京大学出

## 『源氏物語』の藤壺中宮

野村 倫子

本学文学部日本語日本文学科教授

る。 恋情となり、ついには二人の間に表向たまへり」と聞いて親しみ、成長後はから記憶のない母更衣に「いとよう似 がにし御息所の御容貌に似たまへる がにし御息所の御容貌に似たまへる 内のそもそもが、 をおきたてまつりては、 壺を立后させる。 ことを案じ、 なる若宮に親族の後見人が不在である きは光源氏の弟となる皇子さえ生まれ せてのものであった。 と嫉妬を恐れて辞退する母后を説き伏 で右大臣の娘である弘徽殿女御の権力 入った先帝の第四皇女のみである。 て中宮となったのは、 女御が三人登場する。 人」(桐壺) と聞き、 『源氏物語』には藤壺を居所とす 桐壺帝は、 弘徽殿女御を置いて、 余年になり 一の皇子の次に東宮と この立后は「春宮の 光源氏の生母である 光源氏も、 一の皇子 桐壺帝の後宮に その中で立后 引き越したて たまへる女御 の生母 女官

> 方の怒りをかうことになった。 汰する強引なものであり、当然弘徽殿 葉賀)と世間も不審の念をもって取沙 たまひがたきことなり かし」(紅

なずらへて御封賜らせたまふ」(澪標) 改めたまふべきならねば、 されないが、 獲得する。 める。ここにきて藤壺は新たな地位を となり、 の東宮が即位すると、 て政界に復帰する。そのまま藤壺所生 と次々に病に倒れると、都に召喚され よって帝をはじめ弘徽殿大后、 と身を処すが、桐壺院う右大臣方に押されて、 氏の恋情を絶つものであった。 それは藤壺をいまだ思慕し続ける光源 の法華八講の最終日、藤壺は落飾する。 やがて桐壺院が薨去すると、 朱雀帝の御代になって権勢を振る 実父と明かせぬまま後見を務 本文に「女院」 「入道の宮、 桐壺院の霊の出現に 光源氏は内大臣 須磨・明石 御位をまた の称は明示 右大臣 光源氏 一周忌

> 登場した嚆矢とみることができる。 から、物語文学史に於いて「女院」 に続く箇所に 院司 と見えるところ

薨去後、 てが「延喜・天暦」におさまるわけでう思わせる記述もあるが、物語のすべ筆当時は聖代視されていた。確かにそ なり 制度である。 〜九三〇)、「天暦」は村上天皇た。「延喜」は醍醐天皇(在位八 までがモデルとして挙がる。「女院」も、 原道真だけでなく、 についても、在原行平・在原業平・菅はない。光源氏が須磨に退去した一項 九四六~九六七)の時代の年号で、 年前であるが、 『源氏物語』執筆時代の直前に現れた ら「延喜・天暦」 前であるが、作品の舞台は古くか『源氏物語』が書かれたのは約千 (藤原兼家の二女) 物語が執筆されたとい 一代置いて所生の一条天皇が兼家の二女)が、円融天皇の 円融天皇の女御である詮 の治世が「準拠」 同時代の藤原伊周 一(在位八九七といわれてき 同 執

もので、 会の女院とは乖離していく。 高の女性位のシンボルとなり、 の作品を除いて、 す型が多く見られる。そして、 中宮から女院となり、 語文学の世界では、帝の退位とともに 時に複数が存在する事態となるが、 まなパターンで女院宣下がなされ 皇子なき女御、さらに追贈などさまざ 院は、時代が下がると、未婚の皇女や抜かれた最善の策であった。実在の女 板挟みを解消するために、出家は考え 光源氏の恋情を厭わしく感じる。その は光源氏の政的援助は必要であるが、 をかわしていた。若宮が即位した暁に に朱雀帝の治世の弘徽殿大后側の圧力 藤壺は出家によって、若宮を守るため ぐか時間を置いたかという点である。 後関係と、 の即位と落飾のどちらが先かという前る。藤壺と東三条院との違いは、皇子 初発の東三条院のあり方と重なって 皇子の即位によって女院となるのは、 即位したのちに落飾した際に叙された となって後院(上皇の御所) と呼ばれた。夫である帝の死後、 詮子は居所に依って「東三条 女院宣下の時期が落飾後す 物語世界での唯一最 女院は院とセッ で過ご

> いる。 界だけでなく、 また、 『源氏物語』は執筆当時の 時代の先取りさえして

氏物語』 開催されたのが初出とされている。 に介入した「絵合」の行事である。 藤壺が、 が成立したはるか後の永承五 母后の権限で冷泉帝の後宮 正子 内親王のもとで

九歳も年長で、なかなか距離が縮まら(絵合)に親しまれたが、斎宮女御は して入内させる。すでに入内していた息所の娘で前斎宮であった姫宮を後見 いたが、 が番わされたとあり、 に宇津保の俊蔭」、「伊勢物語に正三位」 が勝負のポイントとなる。 の「絵合」が行われる。 になる。まず、 る絵画を蒐集し、帝の関心を競うよう ない。二人の女御の周辺では帝の愛す 帝と年も近く「うちとけたる御童遊び」 弘徽殿女御(先の弘徽殿大后の姪) させられなかった。 間に一女(のちの明石の中宮)を得て光源氏は明石流謫中に明石の君との うとはいえ、 「兵衛の大君」の名がみえるこ 冷泉即位当時は幼すぎて入内 対象となった物語の内容 藤壺の御前での物語絵 そこで、故六条御 後者の判に「業 絵の優劣を競 「竹取の は

> を違え、 勢物語』 とから、 付きであったとしても参加は許されなに心得のない女房は、たとえ帝や中宮も宮のも片はしをだにえ見ず」と、絵 に光源氏後見の斎宮女御を据えて の勢力関係も示唆するものであった。 勝ちを収める。二つの 磨滞在中に描いた「須磨の巻」 審判を務める。こちらでは光源氏が須源氏の弟で風流な方面に長けた帥宮が 目の「絵合」が、天覧の御前勝負であっ どもは死にかへりゆかしがれど、 者が藤壺である。 優劣の主眼となる。 とりも直さず後宮における二人の女御 の心が響きあい 絵が弘徽殿女御方を圧倒する。それは い緊張したものであった。そして二度 れた場面に描かれた登場 が主体となっ 御子冷泉帝の即位、その後宮の中心 こちらは風景画が中心となり、 場所を違えて、 の業平の流謫の姿に重なり、 作品論というより た勝負である。 こちらでは光源氏が須 斎宮女御の蒐集した 「あさはかなる若人 しこで 「絵合」 光源氏と藤壺 人物が、 の最終審判 絵画化さ は、 が、一伊 論の 上の 光



### ●新刊紹介

### 女性歴史文化研究所叢書

# 身体はだれのものか 比較史でみる装いとケア

昭和堂、二〇一八年

# 渡邊。和行本学文学部歴史学科教授

ある。 のファ 化研究の進展のなかで女歴研が設立さ れたことの意味は大きい。というのは、 による社会史研究が本格化する時期で いう女性史、 一九八九年)が終了し、 一九九二年という年に注目しよう。一九九二年に発足した研究所である。 一九九二年は日本の社会史研究がセカ 京都橘大学女性歴史文化研究所(以 ○年代初めは、わが国の社会史研究 しており、 『制度としての〈女〉』(平凡社)と 女歴研)は、橘女子大学時代の に突入して間もない時期である。 ステージ(一九九〇~二〇〇四 一九九〇年に近代社会史研究会 ーストステージ(一九七五~ こうした女性史・女性文 ジェンダー史の論集を刊 日本人研究者

> る。 度的な研究の保証を意味するからであ 設置は、恒常的な研究拠点の誕生と制 と関するがのであ

であり、 て刊 る。 二〇一七年度に上梓された論集であ 求めて書架から本書を手に取るだろ い問いへと投げ出され、読者は答のだろう」と、普段はあまり意識 とともに、 のではないのか」という即自的な反応 歴史」から生まれた共同研究の成果 一二研究プロジェクト「装 本書も女歴研の研究叢書の一冊と トルから、 意表を突かれるが魅力的なメイン 行された。 女歴研が二五周年を迎えた 「じゃあ、 「えっ、 本書は、 体は誰のものな 体は自分のも 読者は答えを 女歴研の いと身体 しな の第

較しようという意図を窺うことがでは古代から現代までの歴史や文化を比 客観性も高いことは理解できるが、「装 体表現」という言葉は汎用性があり、 ドは概念的に等価交換されている。「身 換えられており、この二つのキー 表現」という抽象度の高い言葉で言い ある「装い」は本書のなかでは「身体 だということがわかる。 き、哲学書ではなくて、 は日本・中国・西洋を論じ、 ア」という二つの切り口で、 も、サブタイトルからは「装い」と「ケ な問いへと導かれるのである。 在の根底が揺さぶられるような哲学的 う。つまり、 いて自明視していた前提が覆され、 身体を所有する主体につ ただ、 歴史系の書物 時間的に 空間的に 副題に もっと ワ

れない。 と前面に押し出してもよかったかもしい意味を内包しており、「装い」をもっい意味を内包しており、「装い」をもっと前面に押し出してもよかったかもしと前面に押し出してもよかったかもしい」は服装・化粧・風情に関わるだけい」は服装・化粧・風情に関わるだけい」は服装・化粧・風情に関わるだけい」は服装・化粧・風情に関わるだけい」は服装・化粧・風情に関わるだけい」は服装・化粧・風情に関わるだけい。

本書は三部構成、全一〇章からなりたっている。第一部には身体表現と身体ケアの接点を考察する四つの章が置めれ、第二部は美術作品や文学作品に見られる身体表現を論じる三つの章が置らなり、第三部は身体ケアをめぐる三

る生改革 体の誕生とモードのジェンダー化など 現·身体表象·身体衛生·身体的日常 歴史に触れつつ、 敬称略)は、入浴習慣・モ 現」が総論を兼ねている。 のフランス、 「〈太った身体〉の是認 の意味を考察した。 というキーワー ロッパ社会における身体ケアと身体表 の発展と近代的身体の発見-第 「肥満」をキー 展と近代的身体の発見―近代ヨー一部第一章の北山晴一「消費社会 の動き」) ガストロノミ 第二帝政期ド ドによって、近代的身 身体ケア・身体表 第二章(橋本周子 しい食と身体表 仏独両国に 一九世紀前半 北山(以下、 -ドなどの - の時代」) ・ツにおけ

> されて、 に迫る好論である。 は化粧の持つ心理的意味や機能と役割 「化粧の心理-した。第一部の最後の章、日比野英子 じた第二帝政期のドイツを浮き彫りに 近代医学派からも脱肥満の主張が展開 味を解明 を肯定す 文化史としても読むことができる。 ・生改革運動の主唱者のみならず、 一九世期前半のフランスで肥満 肥満を否定する身体表象が生 る身体表象が現れたことの意 南は、 -装いによる表現とケア」 自然療法・菜食主

を明らかにしている。 維摩文殊像を再興する際の貞慶の関与 がかりに五台山文殊を受容する過程や 蹟の記述の展開と変容を解明 から明・清・近代にいたる女性画家事 から明らかにした。王は、唐・宋・元 教医学・小野流の図像・演劇作品など 体を五輪塔にみたてる五輪五体観を仏 れているのかを考察している。 れているのかを考察している。林は人や文学作品にどのように身体表現が現 維摩文殊像から考える」は、美術作品 の装いがあらわすもの―興福寺東金堂述の形式と女性像」、小林裕子「仏像 述の形式と女性像」、小林裕子「仏像籍から見える女性画家の事蹟―その撰タファー」、王衛明「中国古代絵画史 子「五輪五体の身体観 第二部の三つの章、 興福寺の維摩文殊像を手展開と変容を解明してい つまり、林久美 死と再生のメ

> について説得的な論を展開している。 代には日本人の標準着衣となった背景 性のみならず全階層に普及し、 性が着用した小袖が、その後、 明らかにした。 なわち地区看護師の養成システムとそ アに携わる巡回訪問看護の担い手、 な一端を解明した。松浦は、病者のケ 影響を光明皇后のエピソードを交えつ 導入した入浴思想が中世社会に与えた 米澤は、中世湯屋の構造および仏教が ルスと理学療法」)が収められている。 学における身体―ふれる、うごかす、 および二つのコラム(河原宣子「看護 中世武士と庶民の衣料を素材として」、 もの」の原型小袖の普及とその背景 スにおける地区看護師」、田端泰子「「き 活動の先駆者たち 体観の一様相」、松浦京子 世の湯屋と施浴 の活動内容や活動意識を史料に即して つ考察することで、 いやす」、横山茂樹「ウィメンズ・へ 第三部の三つの章は、米澤洋子 田端は、 ―一九世紀末イギ 人浴にみる中世の身 身体ケアの歴史的 中世の一般女 「在宅看護 江戸時 男女両 す

成果である。 以上の紹介からも明らかなように、 は文学・歴史学・看護学・理学療 本書は文学・歴史学・看護学・理学療 本書は文学・歴史学・看護学・理学療 

### 2018 年度 女性歴史文化研究所シンポジウム

日本古代〜中世にかけての皇族女性たち。彼女たちが歴史の表舞台に登場することは、あまりありません。ですが、なかにはその行動で物議をかもす者、個性を放つ者がいました。そんな彼女たちは何に気づき、何を伝えようとしたのでしょうか。本シンポジウムでは特に斎王に焦点をあて、講演・パネルディスカッションを通じてその行動の背景にある都と斎宮との情報交流、女性の役割の存在とその意味を考えます。

H 8

2018年 11 月 25 日 (日) 13:30~17:00 (受付・13:00~)

수 년

### キャンパスプラザ京都

京都市下京区西洞院通塩小路下ル(京都駅前、京都中央郵便局西側)

講師

### 榎村 寬之氏

斎宮歴史博物館 副参事兼学芸普及課長

コメンテーター

### 野田 泰三

本学文学部歴史学科教授

司会

### 増渕 徹

女性歴史文化研究所所長・本学文学部歴史学科教授

- <受講料> 無料(先着 250 名 \* 定員になり次第締切)
- <お申込方法> 電話・E-mail にて受付
  - ①講座名 ②氏名【漢字・フリガナ】(複数名の場合は全員分)
- ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号をお知らせください。E-mail での方は件名を「女歴シンポジウム申込」としてください。
- **<お申込先>** 京都橘大学 女性歴史文化研究所(学術振興課)下記まで

\*受付時間 9:00~17:00 (土円祝を除く)

### LIME 通信

『クロノス』40 号は9 年ぶりに、創刊当時と同じ年2回発行・判型へと再びその姿を変えお届けすることになりました。おなじみの連載に新連載も加わり、さらに今年度からは、新プロジェクトが始動しています。新たな切り口から見えてくる女性たちは、私たちにどのような気づきを与えてくれるのでしょうか

さて、近年はいろいろなことに対して、多様性が認められるようになりつつあります。その動きの中で、今年7月お茶の水女子大学は、戸籍上男性であっても自認する性が女性であるトランスジェンダーの学生を受け入れる方針を、明らかにしました。お茶の水女子大学はジェンダー研究が察んで、今回の決定

も、「多様性を包摂する女子大学と社会の創出に向けた取り組みであり、多様な女性が参画できる社会の実現のため、真摯に学ぶことを望む人を受け入れるのは当然の流れである」としています。

その一方で、公正であるはずの受験において、女子受験生の点数を一律減点していた大学もありました。ですがこの問題は、性別による差別のみに止まらず、医師の労働環境や働き方問題、ハラスメントの実態など、多くの解決すべき課題を浮き彫りにしています。

当研究所は、今後も多角的な視点から研究を続けていきます。そして、その活動が多くの人にとって、女性を取り巻く問題を考える上での一助になれば幸いです。

INFORMATION



CHRONOS(クロノス) vol.40

発行日: 2018年10月

発 行:京都橘大学 女性歴史文化研究所 〒 607-8175 京都市山科区大宅山田町 34 Tel.075-574-4186 Fax.075-574-4149

E-mail:iwhc@tachibana-u.ac.jp

